

市民と行政が協力 進む協働のまちづくり



▶市防災アカデミーは、「市防災研究会」と協働で開催。会員は地域の危険箇所を地図に記す作業を指導

皆さんは「まちづくり」という言葉をどのように捉えていますか。公共機関が建物や道路を整備して街をつくることもまちづくりですが、市では、まちに関わる市民一人一人が、多くの人と心を通わせ、それぞれの分野で知識や情報を共有しながら進めていく形の「まちづくり」を目指しています。市総合計画では、市のまちづくりを具体的に進めるために、「協働」の視点が取り入れられています。協働とは、市民と行政が共に協力・連携してまちづくりに取り組んでいくことです。

市内では、いろいろな形で協働のまちづくりが進められています。ここでは、協働の考え方と取り組みの状況などをお知らせします。

□問い合わせ まちづくり推進課 26-2111 (内線636)

知識や経験を生かして活動

市では、平成16年の合併を契機に、従来のまちづくりの成果と特色を生かしながら一体感ある新恵那市を創造するため、地域自治区制度が導入されました。まちづくりを具体的に進めるために、市総合計画に取り入れられたのが「協働」の視点です。平成19年度には、協働の方向性を示す「協働のまちづくり指針」が策定されています。

市内では、いろいろな形で市民と行政の協働で、まちづくりが取り組まれてきました。その担い手になっているのは、地域のまちづくり実行組織や自治会、NPO、ボランティア団体、企業などさまざま。それぞれの分野で知識や経験を生かしながら、暮らしやすく、さらに良い生活を

公共サービスの提供に協力

協働は、市民と行政が協力し合うことです。市民が公共サービスの提供や公共施設の維持管理、政策などの企画立案、事業の企画運営などに自らの知恵や技術、経験、情報などを生かして協力する形です。

協働には、市民と行政それぞれに効果があります。例えば、市民は自分たちの特性を生かして活動の目的をより効果的に実現できたり、社会の中で活動の場が増えたりします。一方、行政には、市民が必要としていることに対し、質の高い市民サービスを提供できたり、事業の見直しで、行政運営の効率化を図ることができたりします。

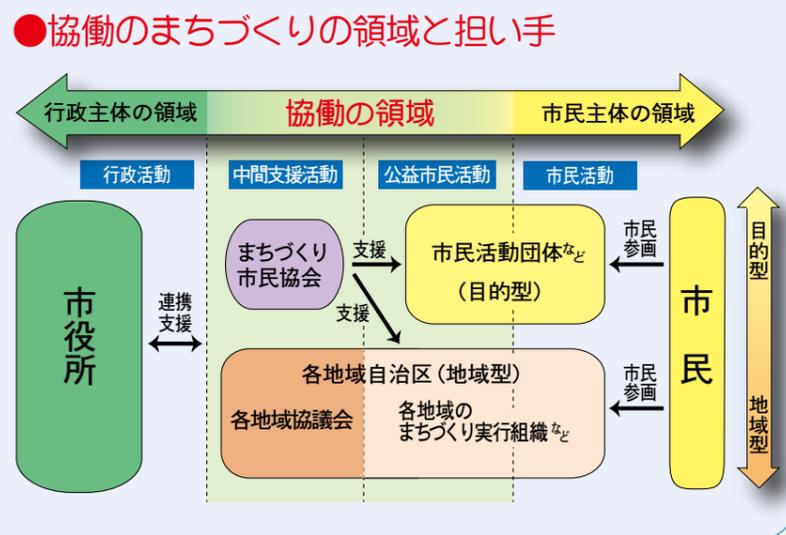
地域型と目的型の位置付け

協働のまちづくり指針では、特定の地域（地域自治区内）での協働を「地域型」、特定地域の枠を越えた市全域を対象とした協働を「目的型」として位置付けています。どちらもそれぞれが社会貢献への意識を高めながら、まちづくりの担い手として参画しています。

地域型では、まちづくり実行組織や各種地域団体など、地域自治区内の組織が、自らが地域の課題解決に取り組む協働を指しています。未就園の子どもを持つお母さんたちの交流を企画する長島町の「Ciaoカフェ」や、各地域で行われている防犯パトロールなど、地域での生活の課題を自ら解決する事業が行われて



▲未就園の子どもを持つ親の交流会「Ciaoカフェ」



中間支援組織が仲立ち

市民や行政、企業などの間に立つて、協働のまちづくりの仲立ちや後押しをしているのが、中間支援組織です。市では、まちづくり市民協会や地域協議会など、支援機能を持った組織があります。情報や経験、ネットワークなどを活用し、中立的な立場で支援をしています。

市まちづくり市民協会

気軽ににご相談ください



市まちづくり市民協会は、市と協働でボランティア活動の推進や、まちづくり活動を行う市民や団体の支援、情報サイト・ポランポネットなどの運営などを行っています。皆さんが、より良い活動をするための情報提供や、研修の企画と開催を行う中間支援組織です。市民と行政、企業が歩調を合わせて、より豊かなまちづくりが実現できる社会を目指しています。

ポランポネットや、まちづくり活動の相談は、いつも行っていただけます。気軽にご利用ください。

市まちづくり市民協会(中コミセン1階) ☎20-0657



▲活動助成金の審査会を開催

※コミセン=コミュニティセンターの略

さまざまな形のまちづくり

さまざまな場所や形で行われている協働のまちづくり。その一例を紹介します。

山づくりで山の美しさを取り戻す



柚組

すずむらいま
鈴木今衛さん
(中野方町)

平成12年に上矢作町で起きた恵南豪雨災害では、山の木が流れ出す被害がありました。私は、中野方町の山でも、手入れをしないと同じような被害が出るのではないかと思い、講習会を開催したところ、山を守るという意識を持つ人が増加。積極的に山づくりに励むことで、水源を守り、美しい山を取り戻すことができるよう、平成21年、柚組を結成しました。現在は17人で活動しています。

山を守るためには、間伐をして、地面まで日光が入ることが必要です。しかし、間伐には労力や費用が掛かり、捨てるだけの木の間伐には、なかなか取り組んではもらえません。そこで、間伐した木を有償で引き取り、販売するルートを開拓しました。引き取り代は、市の補助金を



▲間伐体験の講習会を開催

使って、販売する額より多い金額です。販売先は、再生紙の基となるチップ工場や木質ボイラーを使用する施設などです。間伐材を集積場「木の駅」に出荷した人には、地域通貨「モリ券」が発行されます。これは、登録している店舗でお金の代わりとして使える券です。現在、中野方町内などの19店舗で使用することができます。この仕組みは、森林のためにも、間伐した人のためにも、地域の商店振興のためにもなる「木の駅プロジェクト」として、確立しました。

中野方町には、広大な山が広がっています。木の駅プロジェクトに参加している人は、まだ一部分です。今後も中野方町全体の山づくりを進めるために、理解者を増やしていくような活動をしていきたいと思っています。

NPO法人 里山を守る会武並



わたなべけんぞう
渡邊鏡三さん
(武並町)

地域の触れ合いの場所に

私たちは、武並保育園の西側の遊休地を、里山再生区域として整備を行いました。この場所は、大正時代、武並町出身の田中守平が創設した「太霊道」の総本院の広大な庭園があった場所です。整備する前は、雑木林がうっそうと茂っており、とても庭園があったとは思えないほどでした。しかし、当時の写真を入手することができて、全容が分かり、何とか復元したいと思うようになりました。そこで仲間呼び掛け、「里山を守る会」として、12人で整備に取り掛かることになりました。木々を伐採し、池や滝を再現。池の周りには、遊歩道を整備し、植栽も施しました。うっそうとしていた森は、明るく見晴らしが良い公園に様変わりしました。費用などは、会費や寄付金、市まちづくり市民活動助成金などと、原材料の寄付で賄いました。



▲春祭りで整備の写真を飾る準備

この場所は、地域の住民の安らぎと触れ合いの場所にしたいと思っています。最近では、保育園児の散歩や、犬の散歩、公民館講座のウォーキング講座のコースとしても使ってもらえるようになりまし。また小学校も森林学習の授業で訪れます。だんだん地域の憩いの場として認知されるようになっていきたいと思います。

5月20日には、「たいれいロードパーク春祭り」を開催。ステイイベントやバザーを行い、地域住民に親しんでもらえるように企画しました。

活動は、のり面の保護や排水工事など、これからも続けていきます。作業は大変ですが、少しずつでも整備が進んでいくのが楽しいです。里山整備がお年寄りの健康づくりや生きがいづくり、生涯学習の一環として役立てばよいと思います。

子育て団体をつなぐ場が必要



子育て支援 ネットワークえな

あだちいくこ
足立伊公子さん
(東野)

子育て支援ネットワークえなは、子育てに関係する団体や支援機関をつなぎ、情報や考え方を共有し、子育て環境をより充実させることを目的に活動しています。

市内には、先輩ママが子育てのアドバイスをするグループや放課後の子どもを支援するグループ、発達障がいの子どもの親のグループなど、子育てに関する活動で活躍している団体がいくつもあります。しかし、それぞれの団体は、対象の子どもの年齢幅が狭いことが多いため、他の年齢の子育て情報などを聞く機会が

少なく、また行政とのつながりを持つ団体も多くはありませんでした。そこで、活動の枠を広げるためにも、子育てに関係する団体や個人、行政機関をつなぐ場が必要だと考え、このネットワークを立ち上げました。

ここでは、それぞれが情報を出し合い、行政サービスも勉強しながら、活動の質を向上させるように学び合っています。他の団体の活動拠点や活動を見学したり、保健師や発達支援センターの指導員などの話を聞いたりして、市内の子育て環境を把握していれば、子どもたちと関わる時に、適切な支援ができるようになると思います。

▼情報交換して活動の質の向上を目指す

もっとこの輪を広げたいので、ぜひ声を掛けてください。



人口減少の歯止めが課題

NPO法人 まちづくり山岡



いとうこういち
伊藤公一さん
(山岡町)

NPO法人まちづくり山岡は、山岡地域自治区のまちづくりを行う実行組織として、平成15年に設立されました。山岡町には、八つの区(自治会)があり、現役の区長や区長経験者が、まちづくり山岡に参加し、まちづくりでの連携ができる仕組みとなっています。

地域づくり事業としては、七つの事業を行っています。内容は、ささゆりの里づくり事業、環境美化事業、登り窯フェア事業、山岡みまもり事業、親子ふれあい事業、ふれあい広場事業、交流・定住環境づくり事業です。

山岡町では、人口減少が進んでおり、減少への歯止めが課題となっています。このため、交流・定住環境づくり事業では、空き家調査を行い、市の空き家バンクに登録したり、宣伝したりする事業を行っています。希望者があれば、空き家を案内したり、持ち主や地

域と調整したりして、定住者を増やす努力をしています。最近では、3軒の定住が具体化しそうです。

山岡みまもり事業としては、地域の安全パトロール、子どもの安全、高齢者などの安心に取り組みんでいます。子どもの安全では、老人クラブや子どもの保護者らが、近くのバス停や通学路にある畑などそれぞれが協力できる場所で、子どもの帰る時間の見守りや声かけを行っています。また独り暮らしの高齢者などへの見守りとしては、福祉委員や日赤奉仕団らが高齢者の家を定期的に回り、何かあったときの連携を密にするような体制を築いています。

昨年は、地域のつながりができるように、まちづくり講座を開催。認知症や子育てなどについて勉強しました。今後は、町全体が活性化できるように、もっと考えていきたいと思っています。

▲空き家を調査し新たな定住者を確保

